



これまでの議員活動の中で特に力を入れてきたのが、市民の皆さまとの「対話」です。様々な相談や声に向き合う機会として、「市民と議員有志の対話集会『タウンミーティング』」を年1回のペースで開催してきました。できる限り多くのご意見を吸収し、共に新庄の未来像を描きたい!そんな思いから、会場や開催日時、手法など、試行錯誤を重ねてきました。令和8年2月に開催した第3弾では、近隣の市町村議員に参加いただき、広い視点で建設的な議論が交わされました。今後もこれらの意見を議員活動に役立ててまいります。



1

一般質問

令和8年3月の議会では「これからの教育政策について」、6月

には「大規模林野火災のリスクと情報収集の体制等について」の質問を行いました。

本通信では、定例議会での一般質問の中から、以下の2項目をピックアップして報告いたします。

「地域とともに育てる、新庄の教育」

3月議会では、教育長が再任されたことを受け、これまでの2年間で振り返りながら、今後の新庄市の教育をどのように進めていくのか、その考えをズバリお聞きしました。

教育長からは、「子どもたちの学ぶ意欲をどう引き出すか」と「社会の様々な変化への対応が遅れがちであること」の2点が課題として挙げられました。方針としては、「教育は人なり」との考えのもと、子どもたちと直接向き合う教職員の資質向上をはかるとともに、地域の方々が学校や子どもたちの学びに関われる仕組みづくりを進めたいとの考えが示されました。

私は就任時から、地域の人々との出会いや様々な体験が、子どもたちの生きる力や学ぶ意欲を育て、その結果、学力にも良い影響を与えてきました。地域の人材がもっと積極的に学校と関わることで、教職員の負担が軽減され、本来向き合うべき子どもたちとの時間も確保できるのではないのでしょうか。教育を学校だけに任せるのではなく、家庭・地域・学校がそれぞれの力を生かし、連携していくことが大切と考えます。今後も、地域とともに子どもたちを育てる新庄の教育を目指して、活動を続けてまいります。

「子どもの声が届くまちへ」

9月議会では、「子どもの権利」を中心に質問しました。新庄市の「こどもスマイルプラン」でも、子どもを単に守られる存在としてだけではなく、自分の考えや意見を表明し、社会に参加する一人の権利の主体として捉える考え方が盛り込まれています。

市長からは、中学生と市長との意見交換会やアンケート、子ども議会等を通じて、継続して子どもの声を聞き、施策の改善につなげていくとの考えが示されました。一方で、子どもの権利を明文化する条例については、現時点で具体的な検討は行っていないとの答弁でした。

私は、子どもに関わることを大人だけで決めるのではなく、子ども自身が当事者として思いや悩みを伝えられ、その声を受け止めてもらえる環境をつくるのが大切だと考えます。意見を言える子だけでなく、不登校やひきこもり等、声を上げにくい子にも目を向けなければなりません。「自分の声でまちが変わった」と実感できることが、社会への参加や地域への愛着にもつながると信じています。



これまでの議員活動の詳細は、坂本健太郎公式ホームページ～市政に新しい風を!～にて発信しています。議会での一般質問の内容等を議事録から抜粋し、要約版として掲載していますので、ぜひ一度ご覧ください。

坂本健太郎 検索

活動の様子は公式HPでも
発信しています。
右 QRコード
からCheck!



SAKAMOTO TIMES

2 議会改革推進委員会

新庄市議会が政策集団に生まれ変わる！

議会改革推進委員会では副委員長を務めています。市民の声を聞くだけで終わらせず、市の取組みにつなげる仕組みづくりを進めてきました。常任委員会ごとにテーマを決め、市民の皆さまと意見交換をし、現場を調べた上で、市へ具体的な提案を行います。その後も、「実際に予算がついたのか」、「事業として進んだのか」、「成果は出たのか」まで確認し、次の提案につなげていきます。



3 政策提言

議会の総意で政策提言を9月議会で提出

私はこれまで、市民の皆さまとの対話を何より大切にしてきました。その中で、不登校に悩む子どもや保護者の声、多様な学びの場を求める声も数多く聞いてきました。聞いて終わりではなく、その声を議会の中で議論し、政策提言という形につなげられたことは、議員として大きな喜びです。市民の声が実際の政策につながる議会を今後も目指していきます。

4 視察・研修

視察を「新庄の一步」に変える

「視察に行って終わり」にはしたくありません。今回、国会や文部科学省を訪問し、特に不登校支援について、子どもを学校へ戻すことだけでなく、一人ひとりに合った学びをどう保障するかを学びました。また、東京での山形・新庄の発信のあり方も現場で確認することができました。

「見て」・「聞いて」・「持ち帰り」・「議会で問う」。市民の皆さまの暮らしにつながってこそ、視察研修の意味があります。こうした経験を今後の一般質問や

政策提言にしっかりと活かしていきます。



後援会のご案内

坂本健太郎の活動趣旨にご賛同いただき、応援くださる方には、後援会への入会をお願いしています。下記のQRコードから入会申込フォームにて、お名前・連絡先・相談事や応援メッセージなどをぜひお知らせください。



5 日々の活動

子どもから大人まで 新しい出会いと新しい役目

議員活動だけでなく、地域の中で市民の皆さまと関わる時間も大切にしています。学校では子どもたちへの読み聞かせ活動に参加しています。振り返れば、わが子にはこんなに読み聞かせをしてこなかったかもしれません(笑)。それでも今、子どもたちの反応を間近で感じながら、一緒に本の世界を楽しめることに大きな幸せを感じています。

そして、この度ご縁もあり、保護司を務めることになりました。保護司は、罪を犯した人や非行のある少年が地域の中で立ち直り、再び社会の一員として生活していけるよう、相談に乗ったり、見守ったりする役割です。地域の安全と一人ひとりの再出発を支える大切な仕事だと、責任の重さを感じつつも、いただいた役割をしっかり果たしていきたいと思います。

「新庄・最上レインボーマーチ2026」への参加

誰もが自分らしく安心して暮らせる地域社会の実現を目指し、LGBTQの方や障がいのある方などの社会的マイノリティと、その支援者による市民マーチが新庄・最上地域で初めて開催されました。

「学びの土壌づくり」勉強会を開催します！

地域づくりは人づくりから。公約に掲げるとおり、日々の活動の中でも教育は大きな柱の一つです。地域を担う人材の育成には、学校だけでなく、家庭と地域社会が連携して学ぶ環境と機会が必要です。「学びを通したネットワークづくり」を目指して、地域が抱える課題の解決の一助となる勉強会を今年度も開催いたします。

▶「わたし」から「わたしたち」へ

日時／11月21日(土) 9:30～ 会場／雪の里情報館
講師／森 一貴氏(東北芸術工科大学企画構想学科 専任講師)

▶子どもも大人も幸せになるためのジェンダー平等教育

日時／12月19日(土) 18:45～ Zoom(オンライン開催)
講師／星野 俊樹氏(「とびこえる教室」著者・元小学校教師)

▶子どもの学びと発達を考える

日時／12～1月開催予定 会場／雪の里情報館
講師／森田 智幸氏(山形大学大学院教育実践研究科 准教授)



坂本健太郎通信 第2号 (2026年10月5日発行)

発行元／坂本健太郎(新庄市万場町13-17 Tel.0233-77-4196)